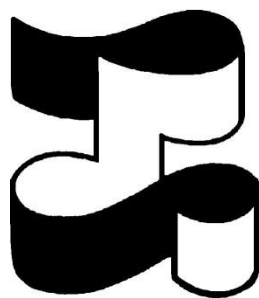


平成 29 年度

第 34 回 全国製図コンクール審査結果



公益社団法人 全国工業高等学校長協会

第 34 回 全国製図コンクール審査結果

全国製図コンクール実施委員会

I. 機械系講評

1 参加校について

今年度の参加校は、45 校 (2,631 名) であった。昨年度に比べ参加校は、3 校 (17 名) 増であった。地区別では、東北 (山形) 1 校、関東 (栃木・埼玉・東京・山梨) 8 校、北信越 (新潟・富山) 5 校、東海 (静岡・愛知) 11 校、近畿 (京都・大阪・兵庫・和歌山) 12 校、中国 (岡山・山口) 7 校、九州 (大分) 1 校であった。北海道地区、四国地区からの応募がなかったことは大変残念である。学年別の割合は、2 年生が全体の約 4 割、3 年生が約 6 割であった。

応募された最優秀賞候補作品を審査したところ 22 点が最優秀賞として入賞した。次に 22 点の中から最優秀特別賞を審査し、8 点を入賞とした。

また、この度、自然災害の被害に遭われ、作品を仕上げるのに十分な時間をとることができなかった地区の皆様へお見舞い申し上げます。

2 審査内容について

審査では、①用紙の大きさや図面の様式が指定どおりかなど、課題条件に適合しているか、②継手外径や軸穴直径、キーの呼び寸法などの設計事項に誤りはないか、③線の太さ・形・濃さが適当であるか、その他図面に著しい不適箇所はないかなどについて審査した。その結果、20 点が入賞には至らなかった。その主な内容は、次のような初歩的なミスによるものである。

○数字の大きさやデータム三角記号が旧 J I S の表示のもの。

○平座金、ばね座金など規格外の図示のもの。

○はめあいの上下寸法許容差が未記入なもの。

○公差値を間違っ て記入しているもの。

○六角ナットの図示が略画。寸法が不適当なもの。

その他、図面の汚れが極端に目立つもの。

○ボルト穴の数を間違っているもの。

最優秀賞の審査に合格した 22 点について、さらに最優秀特別賞の審査を行った。最優秀特別賞の審査では、①明瞭さ、②正確さについて細部にわたり審査した。

明瞭さでは、①図面の重要な要素である図形と寸法の配置、②線の太さ・形・濃さや直線と曲線の継ぎ目、文字や記号などから図面全体の明瞭さについて審査した。正確さでは、組立図・継手本体 (ナット穴側とブシュ穴側) ・継手ボルトの図面について図形・寸法・記号・部品欄などの正確さを審査した。その結果、表に示すとおり、最優秀特別賞に 8 点の作品が選ばれた。

最優秀特別賞 (機械系受賞者)

都道府 県名	学校名	学 科	学年	氏 名
富 山	魚 津 工	機 械	3	中川 健斗
富 山	高岡工芸高	電子機械	3	槻尾 祥希
富 山	砺 波 工	機 械	3	小西 真央
大 阪	堺 工 科 高	機 械	3	本田 彩華
兵 庫	飾 磨 工	機械工学	2	溝脇 拓磨
和歌山	紀 北 工	機 械	3	牲川 直輝
和歌山	田 辺 工	機 械	3	南 龍治
和歌山	箕 島 高	機 械	3	石谷 智哉

3 審査結果について

最優秀特別賞は、今年度 8 点の作品が選ばれ昨年と同数であった。

審査全般を通して感じたことを次に記す。

図面の正確さでは、地域での差が見られた。文字は、よく練習している様子が分かった。線の区別や筆圧がはっきりしていた。

設計段階で、設計票の記述の誤りにより、入賞できなかったものがあった。図面はきれいにかかっているが、規格外の図示や表示ミスが目立った。また、同一県で同様の間違っただけの図面をしているものがあった。図面の中には、ナットが略図で示されているもの、ばね座金が規格外で図示されているもの、太い線と細い線の区別がはっきりしないものがあった。寸法表記や公差の文字の大きさが旧 J I S の規格で示されているものがあった。矢印や寸法数値がないもの、中心マークの脱落などの不備があった。

応募作品の中には、昨年度入賞した図面（間違っただけの図面）を参考に指導されていると思われるものや教科書等の製図例を写すものがあり、必ずしも高得点に繋がっていないため、正確な図面をすようご指導いただきたい。

なお、課題の指定事項の JIS B 0031 : 2003 「製品の幾何特性仕様 (GPS) - 表面性状の図示方法」には、引き続き注意していただきたい。

製図コンクールは、匠の技を競い合う場でもあり、製図コンクール本来の目的を十分ご理解ください。応募作品の中には、未完成と思われる図面の応募もあった。

①本コンクールは、課題の指定事項に合致することが前提条件であり、特に J I S の改正点に注意していただきたい。

②製図の基本的な事項については、ミスがないよう注意していただきたい。

③教科書等の製図例をそのまま写すことのないよう注意していただきたい。

④組立図の役割を理解して図示していただきたい。

⑤完成後に検図を十分するよう注意していただきたい。

その他、ばね座金の切り欠け部の角度は 30 度とすること。狭い場所への寸法記入を工夫することなど、今後ご指導いただきたい。下表に検図項目と留意点を示しておきましたので、指導の参考にしていただきたい。

<参考>

検図項目・留意点	
基本的事項	①用紙の大きさや用い方は指定どおりか。 ②一品一葉式でかかっているか。 ③尺度は指定どおりか。 ④課題の指定事項に適合しているか。 ⑤選定値と図中の寸法が異なっていないか。 ⑥指定事項の J I S の規格でかかっているか。
留意すべき事項	①寸法記入の不備及び脱落はないか。 ②寸法許容差の記入ミスや () のないものはないか。 ③普通公差の注記ミスや脱落はないか。 ④中心マークの不備及び脱落はないか。 ⑤対称図示記号の脱落はないか。 ⑥表面性状・幾何公差の図示方法の間違いはないか。 ⑦部品欄の位置の不備はないか。 ⑧ボルト・ナットの図示方法の間違いはないか。
図面の明瞭さ	①図形や寸法の位置は適切であるか。 ②線の太さや濃さにムラはないか。 ③太い線と細い線の比率に極端な差がないか。 ④文字や記号が丁寧にかかっているか。また、記号等がフリーハンドでないか。 ⑤図面の汚れは目立たないか。

II.電気系講評

1 応募状況について

本年度の電気系製図コンクールの課題及び参加数は次のとおりであった。

(1) 課題

本年度はマンションの屋内配線図、条件及び注意事項は表1に示したとおり、昨年度とほぼ同様である。窓や間取りを自由に設定し、バルコニーや通路側（玄関口）についても自由に設計できる柔軟性をあたえ、生徒の自由な発想や創造的な取り組みを期待した。また、本年度も、参加校及び参加生徒の負担を軽減することをねらいとして、作図内容がいたずらに広範になることを避け、学習内容を絞り込むことができるよう、1枚目は「屋内配線図、表題欄」のみ、2枚目は「分電盤接続図、照明器具一覧表、表題欄」のみに限定した。

表1 平成29年度電気系課題の概要

内 容	マンションの屋内配線図
用 紙	ケント紙A3サイズ2枚
条 件 (一部のみ)	<ul style="list-style-type: none"> 電源は、単相3線式、主開閉器として過負荷保護付漏電遮断器を使用する。 1kW以上の比較的大きな容量の機器を使用する分岐回路は専用回路とする。 洗濯機、衣類乾燥機、電子レンジ、冷蔵庫、食器洗い機、エアコン、温水洗浄式便座、電気温水器及び屋外コンセント用には接地極付コンセントを使用する。
注意事項 (一部のみ)	<ul style="list-style-type: none"> 間取り平面図以外は手書きとする。 1枚目には、屋内配線図、表題欄を記述する。 2枚目には、分電盤接続図、照明器具一覧表、表題欄を記述する。 1枚目と2枚目との整合性に留意する。

(2) 自由設定の間取り、窓等の作図について

今年度も、課題で間取りや窓等を自由に設定するようにした。自由に設定した間取りや窓等を書き加えた間取り平面図は、手書きであってもCAD

を用いて印刷したものを使用してもよいとした。

(3) 参加数

表2に平成25年度から本年度までの参加学校数と参加生徒数を、表3に地区別の参加状況を示す。本年度は、参加学校数が12校、参加生徒数が553名であり、前年度と比べると学校数は同じで、生徒数は少し増加という状況であった。

表2 参加学校数、参加生徒数の推移

年度	学校数(校)	生徒数(人)
25年度	17	888
26年度	18	740
27年度	13	651
28年度	12	543
29年度	12	553

表3 地区別参加学校数、学校名(学校番号順)

No.	地区名	都道府県名	学校名
1	東海(2)	愛知	岡崎工
2			春日井工
3	近畿(6)	兵庫	尼崎工
4			飾磨工
5			兵庫工
6		和歌山	紀北工
7			田辺工
8			和歌山工
9	中国(4)	鳥取	倉吉総合産業高
10		岡山	笠岡工
11			水島工
12			高梁城南高

2 審査結果について

電気系12校(553名)の応募作品の中から、表4に示したとおり最優秀特別賞2点、最優秀賞12点、優秀賞23点、佳作23点を入賞とした。

今年度も昨年同様、最優秀賞候補作品が12点と応募点数が少なく残念である。また、今年度も、作品のレベル差が大きかったと感じた。しかし、図面として不十分な作品は無かった。

表 4 最優秀特別賞（学校番号順）

都道府県	学校名	学科	学年	氏名
岡山	笠岡工	電気情報	3	宇田涼一
岡山	水島工	電気	3	岡林凌平

3 審査方法について

審査は、例年と同様に、配線設計と製図の両面から、それぞれの審査項目に従った減点法及び、安全性、利便性、快適性、独創性等において優れたアイデアや工夫が盛り込まれている作品に対する加点法の両方を併用して総合的に行った。注視した観点は次の4点であり、①の課題条件及び注意事項については、特に重視した。

- ①課題の条件及び注意事項を満足しているか。
- ②電気設備技術基準や内線規定に則した配線設計がなされているか。
- ③配線、図記号、文字等が正確で明瞭に書き込まれているか。
- ④安全性、利便性、快適性等に配慮した設計がなされているか。

(1) 配線設計について

配線設計に関する主な審査項目を以下に示す。

- ・屋内配線図と分電盤接続図との対応
- ・屋内配線図と照明器具一覧表との対応
- ・分電盤の位置、主開閉器の容量
- ・分岐回路の個数と負荷分担
- ・照明器具等の適切な配置（容量、個数）
- ・点滅器の位置
- ・接地極付コンセントの使用
- ・日常生活において不都合を感じさせないような器具や機器の設置 等

(2) 製図について

例年と同じように、図記号の正確な表記、図面のバランス、線の濃さ・むら・太さ、接続点、文字、記事欄や表のバランス等について審査した。

本年度は、マンションの間取りを自由に設定できるほかに、バルコニーや玄関口等も自由に設計する課題としたが、ホームシアタールームを設計するなど快適性や利便性まで、よく考えられた力

作もあった。しかし、次のような不注意や配慮不足もあった。

- ・条件（接地極付、防水等）を満たさない器具の使用
- ・配線の条数不足や条数記載無し
- ・照明不足

4 おわりに

本年度も昨年度同様、応募作品のうち2点をホームページ上に公開した。これは、より多くの学校に応募作品のイメージを掴んでもらい、参加しやすくすることと、作品に記述すべき内容の過不足を少なくすることを目的としたものである。

本年度の応募作品については、ほとんどの照明がLEDを用いており、省エネルギーに配慮した作品が多くなっている。また、部屋の間取りや窓などを自由に設定する課題としたが、多くの作品でいろいろな工夫がなされ、目的にあった配線設計などよく考えられていた。しかし、中には玄関を入れてどう歩いて部屋に行くのか、スイッチや照明の位置、数が不適切であったり、洗面に照明が無かったり、浴室や台所に換気扇が無いなど、普段の生活や実際に自分が住んでみてどうなのか、簡単な想像ができていない作品や屋内配線として問題がある作品が少数あった。結果として、作品のレベル差が大きいと感じた。

来年度は、課題条件や注意事項をよく読み、丁寧な作品が数多く応募されることを期待している。

最後に、参加校の御指導にあられた先生方に心からお礼を申し上げますとともに、新たな学校の積極的な参加をお願いして講評とする。

III.留意事項

全国製図コンクールに参加した生徒には、ジュニアマイスター顕彰制度において、以下のポイントが与えられる。

- 最優秀特別賞・・・・・・・・・・12ポイント
- 最優秀賞・・・・・・・・・・7ポイント
- 優秀賞・・・・・・・・・・4ポイント
- 佳作・・・・・・・・・・2ポイント